

# 委託事業実施内容報告書

## 平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 長野県

### 1. 事業名称

バイリンガル指導者を活用した日本語学習支援事業

### 2. 事業の目的

同国人に対して日本語と母国語で生活に必要な日本語表現の指導や、日本社会の習慣、マナーを伝授するバイリンガル人材を育成し、その者を活用した日本語教室を実施することにより、日本語学習支援の拡充を図り、外国籍県民等の自立と社会参画を目指す。

バイリンガル人材が実体験を基に、外国人として最も必要としていること・学ぶべきことは何かを考え、同国人に指導していくことにより、外国人のニーズにあった日本語教育を行う。

### 3. 事業内容の概要

同国人に対して、日本語と母国語で、日本語指導や日本社会の制度、習慣等を伝えることができる人材を育成する。さらに、育成講座修了者が、各コミュニティで必要とされる日本語表現のニーズ分析を行い、自ら指導者となる日本語教室の内容を企画する。バイリンガル指導者が、コミュニティ内外の日本語が不自由なために課題を抱えている層を対象に呼び掛けをし、子育てや公的サービスを受ける上で必要な日本語表現など、ニーズに基づいた日本語表現を教える教室を実施する。

これにより、日本の制度や習慣を真に理解でき、生活に必要な日本語への認識が深まる。

### 4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年4月24日(木) 13:30～ 15:30	2時間	長野県庁 特別会議室	・浅川 佐代子(長野市古里支所住民自治協議会人権共生委員会 副委員長) ・石井 恵理子(東京女子大学 教授) ・小山 富男((公財)長野県国際化協会 常務理事兼事務局長) ・塩澤 正男(長野市教育委員会) ・春原 直美(佐久市市民活動サポートセンター長)	○バイリンガル日本語指導者育成講座の検討 ・各回の授業内容 ・受講者の参集状況 ・修了認定方法 ・事業成果の検証方法 ・その他	・修了認定方法については、ペーパーテストでなく、パフォーマンステストとして、教室企画書を提出させ、それを成果物とする。 ・育成講座修了者をどう支援していくか検討が必要。
2	平成26年7月24日(木) 13:30～ 15:30	2時間	長野県庁 西庁舎302	・返町 健(長野市国際室長) ・堀 永乃((一社)グローバル人材サポート 浜松 代表) ・宮沢 照子(医療法人宮沢医院 理事) ・白鳥 博昭(長野県国際課長)	○バイリンガル日本語指導者育成講座の進捗状況と報告 ・受講状況 ・実施内容 ・バイリンガル指導者による日本語教室について ○子どもの学習支援に係る学校と地域の連携について	・グループ内の役割分担をしっかりと行なう。 ・日本人をどれくらい巻き込めるかがポイント。 ・外国人指導者と日本人が対等に協力できる構図で、教室を実施することを目指す。
3	平成26年11月20日(木) 13:30～ 15:30	2時間	長野県庁 議会棟403	・返町 健(長野市国際室長) ・堀 永乃((一社)グローバル人材サポート 浜松 代表) ・宮沢 照子(医療法人宮沢医院 理事) ・白鳥 博昭(長野県国際課長)	○外国人コミュニティのための日本語教室の実施状況 ○多文化共生シンポジウムの実施計画 ○外国籍児童生徒等の日本語学習支援について	・バイリンガル指導者の到達点を明確にすべき。教室活動が継続しているうちに、目標を皆で作っていくための機会を設定する。
4	平成27年3月12日(木) 13:30～ 15:30	2時間	長野県庁 特別会議室	・宮沢 照子(医療法人宮沢医院 理事) ・白鳥 博昭(長野県国際課長)	○外国人コミュニティのための日本語教室の実施状況について ○多文化共生推進シンポジウム(2/22実施)の報告 ○外国籍児童生徒等の日本語学習支援について ○長野県多文化共生推進指針策定について ○平成27年度日本語学習支援事業の計画について ○その他	・「外国人コミュニティのための日本語教室」について来年度は、実施済みの地域はよりレベルアップした内容で取り組み、新しい地域については今年度の反省を踏まえ実施することを目指す。

## 5. 取組についての報告

### ○取組1:バイリンガル日本語指導者育成講座

- (1) 体制整備に向けた取組の目標  
生活に必要な日本語表現をバイリンガルで指導できる知識とノウハウの習得。
- (2) 取組内容  
同国人に対してバイリンガルでの日本語指導と日本社会の習慣やマナーを教授できる人材を育成する。
- (3) 対象者  
日本語能力試験N2以上を取得あるいは同等レベルの外国籍県民等
- (4) 参加者の総数 30 人  
出身・国籍別内訳

中国	12人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	9人
ブラジル	8人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	1人
ネパール	人	日本	人

- (5) 開催時間数(回数) 21 時間 (全 7 回)

- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年5月11日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	33人	中国(10人)、タイ(10人)、ブラジル(10人)、フィリピン(2人)、ロシア(1人)	・ウォーミングアップ ・バイリンガル指導者の役割 ・異文化社会で暮らすこと	・外国人をとりまく社会的背景と課題、自立のための日本語習得の必要性について。多文化共生社会のためにバイリンガル指導者が果たしうる役割を具体的に考える。 ・文化の違いから起こる誤解や対立、心理的葛藤等の現象について。自らの経験を基に、日本社会に適応する際に必要なことを考える。	石井 恵理子	—
2	平成26年5月25日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	31人	中国(10人)、タイ(8人)、ブラジル(10人)、フィリピン(3人)	・価値観の多様性 ・コミュニティのニーズ分析	・挨拶、お礼、お詫び等のコミュニケーション、習慣やマナーなど、人間関係に関わる言語行動や規範意識等の文化差を知り、相互に調整する方法を考える。 ・各コミュニティで必要とされることを考える。	徳井 厚子 堀 永乃	—
3	平成26年6月8日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	30人	中国(10人)、タイ(10人)、ブラジル(10人)	・日本語の整理とブラッシュアップ	・N2~N1レベルの日本語(文法・語彙など)について、教えるための整理。 ・話しことばと書きことば、スピーチレベルによることばの使い分けなど。	佐藤 佳子	—
4	平成26年6月22日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	29人	中国(8人)、タイ(9人)、ブラジル(11人)、フィリピン(1人)	・子どもの日本語学習支援に際して知っておくべきこと ・日本の教育と学校文化	・年少者の日本語支援、学習支援をする際に必要な知識を学ぶ。 ・日本の教育制度や進路選択の実際、学校の決まりや行事など日本の学校文化を理解し、自分の出身国との違いを確認する。保護者に期待されることを知り、十分な対応が困難な保護者の支援について考える。	石井 恵理子 大橋 春美	—
5	平成26年7月6日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	27人	中国(8人)、タイ(8人)、ブラジル(10人)、フィリピン(1人)	・学校とのやり取りで使う日本語表現 ・公的サービスの仕組みと手続きに必要な日本語表現	・学校からの通知の読み方、担任とのやり取りで使用する日本語表現や、背景知識について。 ・医療、保険の仕組み、必要な手続きや行政文書で使用される基本的日本語表現について。	栗林 恭子 佐藤 佳子	—
6	平成26年7月13日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	24人	中国(4人)、タイ(9人)、ブラジル(9人)、フィリピン(2人)	・日本語コミュニケーション活動の設計	・各コミュニティで周囲の人々と関わりながら日本語力を高めていくことを目指し、活動を考える。経験・知識、日本語力など多様な人々が一緒にできる内容、理解のための手立て、ことばの整理などを具体的に検討する。	堀 永乃	—
7	平成26年8月3日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	29	中国(9人)、タイ(8人)、ポルトガル(10人)、タガログ(2人)	・模擬演習 ・活動方針発表、講評	・参加者同士で活動案を実践する。	佐藤 佳子	—

(7) 参加者の募集方法  
HP、フェイスブック、メルマガ購読者へのメール、口コミ等で募集

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)  
別添のとおり

(9) 取組の目標の達成状況・成果

終了式では36名中30名が終了書を授与され、受講の経験を基に今後ニーズに合った教室を展開していけるのではないかと感じた。

(10) 改善点について

・バイリンガル指導者育成講座の時点で、秋からは教室を実施していくことや今後バイリンガル指導者などとして活動をしていってもらいたい旨を明確に説明できなかった。

・バイリンガル指導者育成講座から日本語教室へ移行していく期間、各教室の実施までに十分な準備期間がなかったため、バイリンガル指導者たちには「何か活動してみよう！」という前向きな希望やモチベーションを持ってもらう以上に、負担の方が大きくなってしまった。

### ○取組2:外国人コミュニティのための日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

学習者が生活に必要な日本語表現と制度や習慣等についての知識を習得するとともに、バイリンガル指導者が実践を通して日本語指導能力を高める。

(2) 取組内容

バイリンガル日本語指導者育成講座修了者を指導者とする日本語教室を開催し、地域の同国人に対して、生活に必要な日本語表現や日本社会の習慣、マナーなどを教授する。

(3) 対象者

日本語によるコミュニケーションが不自由な外国籍県民、また、外国に由来がある者。

(4) 参加者の総数 162 人

中国	19人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	30人
ブラジル	81人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	32人
ネパール	人	日本	人

(5) 開催時間数(回数) 75 時間 (全 15 回)、特別講座 2 時間

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
特別講座	平成26年9月7日(日) 13:30~15:30	2時間	長野市もんぜんぶら座	20人	中国(6人)、タイ(7人)、ポルトガル(6人)、タガログ(1人)	バイリンガル日本語指導者育成講座の受講者が、日本語教室を円滑にできるような具体的な準備をすすめる	・グループ毎に日本語教室の実施計画を立てる	堀 永乃 (※謝金等別負担)	コーディネーター 春原 直美
1	平成26年9月20日(土) 13:30~16:30	3時間	あがたの森文化会館	23人	タガログ語(23人)	防災について	・日本語、タガログ語で行なう防災や応急手当について ・災害時や救命に役立つ日本語を学ぶ ・AEDの使い方	奥津 グレース 地域の消防士	
2	平成26年10月11日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	7人	中国(4人)、タイ(2人)、ポルトガル(1人)	オリエンテーション 災害について	・東日本大震災を体験した講師(外国籍)の体験を取り上げ、地震発生時の対応等について学ぶ	沙 軍岡 土屋 ラタナ 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美 補助者 小山 富男
3	平成26年10月18日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	7人	中国(3人)、タイ(3人)、ポルトガル(1人)	病院について	・消防署に通報し救急車を依頼する時の手順 ・病院での受診の流れ	楊 艶 土屋 ラタナ 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美

4	平成26年10月19日(日) 13:00~16:00	3時間	須坂市中央公民館	8人	タイ語(8人)	日本の教育制度	・日本の教育制度、進学ガイダンス ・学校の文化、活動、よくある質問 ・実践	井田 ビム テープ 近藤 アモン ラト 依田 ワン ティマー	補助者 藤澤 裕子
5	平成26年11月1日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	4人	中国(1人)、タイ(2人)、ポルトガル(1人)	ゴミの分別について	・ゴミとして捨てる「容器」などを実際に確認 ・「ゴミカレンダー」「ゴミ袋」を用意し説明	三石 タナ ラック 楊 艶 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美
6	平成26年11月3日(月) 14:00~16:30	2時間半	長野市柳原公民館	14人	ポルトガル(13人)、スペイン(1人)	防災対策	・防災に備え対応する(地震について、雨の強さ、避難場所)	譜久里 一雄 横谷 マリア	補助者 小沼 めぐみ
7	平成26年11月22日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	5人	中国(1人)、タイ(3人)、ポルトガル(1人)	学校のこと、進路のこと	・学校のこと、進路のことを講義内容に関係する現物を見ながら学習	土屋 ラタナ 楊 艶 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美
8	平成26年11月29日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	5人	中国(1人)、タイ(3人)、ポルトガル(1人)	日本で働くために	・在留資格、履歴書の書き方 ・面接時のマナー	楊 艶 三石 タナ ラック 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美
9	平成26年11月30日(日) 13:30~16:30	3時間	長野市生涯学習センター(4教室)	20人	ポルトガル(7人)、タイ(2人)、中国(3人)、タガログ(8人)	女性・子どものための防犯対策	【長野県国際化協会主催】 県景の出前講座	譜久里 一雄 橋詰 パイリン 高山 俊子	君島 マリクリス
10	平成26年12月6日(土) 13:00~17:00	4時間	中野市市民会館	9人	ポルトガル(8人)、タイ(1人)	ヘアケア・スキンケア	・長野県の気候、生活習慣 ・お肌の構造 ・ハンドケア	(外部講師) 山田 由華 山田 恵美 安村 プリ シーラ	補助者 藤澤 裕子
11	平成26年12月10日(水) 11:00~15:00	4時間	長野市ふれあい福祉センター、長野市防災市民センター	5人	中国語(5人)	手巻き寿司作り 防災体験学習	・日本語のレシピを読み、日本ならではの食材など新しい日本語を覚える ・実際に地震や火災を体験する	山岸 炎 沈 文君 森山 恵	
12	平成26年12月13日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	22人	中国(2人)、タイ(11人)、ポルトガル(9人)	健康保険、年金について	・国民健康保険の加入、喪失手続きについて ・年金の受給資格・仕組みについて	賀沢 マリア 土屋 ラタナ 楊 艶	コーディネーター 春原 直美 補助者 小山 富男
13	平成26年12月14日(日) 15:00~17:00	2時間	ブラジル人学校 コレジオ・ロゴス	33人	ポルトガル語(33人)	防災対策について	・塩尻市消防防災課出前講座	譜久里 一雄 横谷 マリア	
14	平成26年12月21日(日) 13:00~16:00	2時間	須坂市中央公民館(2教室)	12人	中国(2人)、タイ(5人)、ポルトガル(5人)	日本の食文化を体験	・長野県の郷土食の学習 ・おやき調理体験	(外部講師) 高橋 孝幸(14:00~) 古畑 伸一(14:00~) 井田 ビムテープ ロザ クラコ 菊池	補助者 藤澤 裕子
15	平成27年1月18日(日) 13:30~16:00	2時間半	長野市もんぜんぶら座	17人	中国(7人)、タイ(4人)、ポルトガル(4人)、タガログ(1人)、日本(1人)	フォローアップ講座	・各グループの実施状況報告 ・講師による事例発表 ・ワークショップ	NPO法人 アラッセ代表 金城アiko	

(7) 参加者の募集方法

HP、フェイスブック、メルマガ購読者へのメール、口コミ等で募集

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

別添のとおり

(9) 取組の目標の達成状況・成果

指導者としてあまり経験のない方々が、この事業をとうしてバイリンガル指導者としての役割やその必要性を認識する事ができた。

(10) 改善点について

・バイリンガル指導者育成講座終了から教室が開催されるまでの準備期間が非常に短く、不十分な点があった。指導者が余裕をもって教室に挑めるようなスケジュールの組み方を工夫したい。

○取組3:多文化共生推進指針策定委員会

- (1) 体制整備に向けた取組の目標  
多文化共生推進指針の策定。  
(2) 取組内容

これからの長野県における多文化共生の推進の方向性を検討し、日本語学習支援を柱に据えた多文化共生推進指針を策定する。

- (3) 対象者  
策定委員会委員

- (4) 参加者の総数 15 人  
出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	1人
ブラジル	1人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	1人
ネパール	人	日本	12人

- (5) 開催時間数(回数) 7.5 時間 (全 3 回)

- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	出席者氏名	補助者氏名
1	平成26年5月15日(木) 13:30~16:00	2時間30分	長野県庁議会棟第2特別会議室				<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介</li> <li>○委員長の選出について</li> <li>○多文化共生の最近の動き</li> <li>○議事                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県の外国籍民の現状と課題の整理</li> <li>・多文化共生に関する基本的な考え方の整理</li> <li>・ウ 施策の方向性</li> </ul> </li> <li>○第2回会議開催スケジュールについて</li> </ul>	山脇 啓造 佐藤 友則 春原 直美 梶田 能孝 村松 正孝 根橋 美津人 小池 美樹 ルシ ア 飯田 いつき 井田 ビムテープ 奥津 グレース 賀澤 マリア 祐 恵 宮島 氏原 恵理子 征矢 ひろみ 反町 健 笠原 理恵子	—
2	平成26年9月17日(水) 13:30~16:00	2時間30分	長野県庁特別会議室	15人	ブラジル タイ フィリピン 日本	「外国籍民のコミュニケーション能力の向上を図り、生活面での支援体制を充実させる等、誰もが暮らしやすい地域づくりを目指すと共に、外国籍民が主体となった活動を推進する」などを施策目標とした「長野県多文化共生推進指針」の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会報告書骨子案について</li> <li>○第3回会議開催スケジュールについて</li> </ul>	佐藤 友則 春原 直美 梶田 能孝 村松 正孝 根橋 美津人 小池 美樹 ルシ ア 飯田 いつき 井田 ビムテープ 奥津 グレース 賀澤 マリア 祐 恵 宮島 氏原 恵理子 征矢 ひろみ 反町 健 笠原 理恵子	—
3	平成26年12月18日(木) 13:30~16:00	2時間30分	長野県庁議会棟404・405会議室				○委員会報告書案について	山脇 啓造 春原 直美 梶田 能孝 村松 正孝 根橋 美津人 小池 美樹 ルシ ア 井田 ビムテープ 奥津 グレース 賀澤 マリア 祐 恵 宮島 氏原 恵理子 征矢 ひろみ 反町 健 笠原 理恵子	—

- (7) 参加者の募集方法  
開催通知送付によって周知

- (8) 特徴的な活動風景(2~3回分)  
別添のとおり

- (9) 取組の目標の達成状況・成果  
「長野県多文化共生推進指針」を策定 別添のとおり

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai/sangyo/kokusai/tabunka/tabunka/shishin/shishinn-kekka.html>

○取組4: 多文化共生推進シンポジウム

- (1) 体制整備に向けた取組の目標  
一般県民等に対して、長野県における多文化共生社会作りと、それに資する日本語教育の在り方について認識を深めてもらう。
- (2) 取組内容  
取組1～3における事業成果を、一般県民、外国籍県民、市町村、NPO等に広く周知するためのシンポジウムを開催する
- (3) 対象者  
一般県民、外国籍県民等、市町村、県及び市教育委員会、日本語学習支援に関わる団体、個人等
- (4) 参加者の総数 45 人  
出身・国籍別内訳

中国	2人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	1人
ブラジル	3人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	1人
ネパール	人	日本	38人

- (5) 開催時間数(回数) 4 時間 (全 1 回)

- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年2月22日(日) 10:30～15:30	4時間 (休憩時間を除く)	長野市 柳原公民館	45人	中国(2人)、 ブラジル(3人)、 タイ(1人)、 フィリピン(1人)	平成26年度策定中の「多文化共生推進指針」について、策定状況を県民に周知し、今後の長野県の多文化共生のあり方について認識を共有する機会とする。 また、平成26年度日本語学習支援事業の実施状況と成果について報告を行う。	○基調講演 「多様性を活かした多文化共生社会に向けて」 ○多文化共生推進指針策定について報告 ○外国籍県民の力を活用した地域社会の活性化について ・体験談 ・パネルディスカッション	山脇啓造 (明治大学国際日本学部教授) 堀 永乃 (一般社団法人グローバル人材サポート浜松代表理事) 春原 直美 (日本語教室・すずらんの会事務局長) (パネラー) 横山ルッカス 井田ビムテープ 沙 軍崗	

- (7) 参加者の募集方法  
HP、フェイスブック、メルマガ購読者へのメール、口コミ等で募集
- (8) 特徴的な活動風景(2～3回分)  
別添のとおり
- (9) 取組の目標の達成状況・成果  
一般県民等に対して、長野県における多文化共生社会作りと、それに資する日本語教育の在り方について認識を深めてもらうとともに、本年度策定した指針を広く県民に周知するため、多文化共生推進に関するシンポジウムを開催した。指針に示した多文化共生の推進に係る方向性、施策の柱、役割分担等について、説明するとともに、バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者による報告、パネラーによる意見交換を行い事業の成果を共有した。
- (10) 改善点について  
地域の外国籍県民の方の積極的な参加が少なかった。周知方法も踏まえ考えていきたい。また、午前、午後にもたがっての開催だったため昼食のとりかたなど、ご参加いただいた一般の方々への配慮が足りなかった。開催日程、内容など今後更に工夫したい。

## 6. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的

同国人に対して日本語と母国語で生活に必要な日本語表現の指導や、日本社会の習慣、マナーを伝授するバイリンガル人材を育成し、その者を活用した日本語教室を実施することにより、日本語学習支援の拡充を図り、外国籍県民等の自立と社会参画を目指す。

バイリンガル人材が実体験を基に、外国人として最も必要としていること・学ぶべきことは何かを考え、同国人に指導していくことにより、外国人のニーズにあった日本語教育を行う。

### (2) 事業目的の達成状況

これまで長野県内で外国籍県民等が日本語を学ぶ機会は、市町村やボランティアが主体となって運営している日本語教室やJICEの実施する就労準備研修であったが、県としても外国籍県民等との意見交換会、県民モニターアンケート等を通じて、多文化共生を推進する上で日本語や日常生活に必要なルールを学ぶ機会を提供することが重要であると再認識した。

そこで、既に一定期間日本で生活し、様々な経験を積んだ外国籍県民等から来日して間もない外国籍県民等に、日常生活に必要なルールをその際必要になる日本語も合わせて教えるバイリンガル日本語指導者育成講座を開催することとした。

この講座は、予想を上回る参加者が集まり、受講者は、自身の困った経験などに基づき、必要な知識とその際必要になる日本語とその教え方について学んだ。

講座修了者は、グループで、仲間のために必要な知識とその際に必要になる日本語を学ぶ機会を設け、外国人コミュニティのための日本語教室の参加者は162名にのぼった。

また、県として多文化共生に関する指針を策定するため、長野県多文化共生推進指針策定委員会を開催した。この委員会では、日本語の学習支援の方向性も含め、今後の長野県における多文化共生の推進の方向性を検討し、県として、外国籍県民等の存在を地域づくりにおいて積極的にとらえ、多様性を活かした地域づくりを推進する指針を策定した。

さらに、策定した指針を広く県民に周知するため、多文化共生推進に関するシンポジウムを開催し、指針に示した多文化共生の推進に係る方向性、施策の柱、役割分担等について、説明するとともに、バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者による報告、パネラーによる意見交換を行い事業の成果を共有した。

### (3) 地域における事業の効果、成果

本事業を通じて、バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者等の連携を促し、「自分たちだけで、地域のために活動ができる」と勇気づけることができた。

これにより、バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者等が主体となって、地域のキーパーソンとして外国籍県民等の共助活動の推進をはじめている。

こうした動きは、市町村やNPO等が既に行っている日本語学習の支援などの多文化共生の推進に関する取組と連携し、さらに広がりをもった活動に展開されることが期待される。

この事業は、県が実施主体であったことから、地元の市町村やNPO等との連携を重視したが、これにより、地域が一体となって日本語学習の支援に取り組むことができたほか、県が行う他の多文化共生の推進に係る事業の展開においてもスムーズな運営を図ることができた。

また、外国籍県民等の住民が少ない市町村にも、日本語の学習支援など多文化共生の推進に関する施策について、方向性を示すことができた。

### (4) 改善点、今後の課題について

#### 今後の課題

バイリンガル指導者育成講座終了後に行なう、外国人コミュニティのための日本語教室の企画に時間が取れなかったことから、早めに全体のスケジュールを参加者に周知していく必要があると感じた。バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者が外国人コミュニティのための日本語教室を実施するなど、地域のキーパーソンとして外国籍県民等の共助活動を推進していくためには、そうした動きをサポートする人材が必要であり、今後は、こうした人材の発掘や育成に取り組んでいく必要がある。

また、県内の一部の地域で実施したため、今後は他地域でも同様の取組を実施したい。

# バイリンガル日本語指導者育成講座

## 受講者募集！！

Inscrições Abertas para o Curso de Preparação de Orientador do Estudo da Língua Japonesa!!

双语 日语指导员培训讲座 招募听讲生!!

Naghahanap ng mga interesadong mag-aral ng bilingual na pagtuturo ng Nihongo!!

อบรมเพิ่มศักยภาพในการสอนภาษาญี่ปุ่นสำหรับผู้สอนสองภาษา !!

Join us at our Training Seminar for Bilingual Japanese Teachers!!

がいこくしゅっしん

みな

### 外国出身のバイリンガルの皆さん！



むりよう たくじつ  
無料・託児付き  
Gratuito - presença de baby sitters  
免费・提供寄托孩子服务  
may libreng mag-aalaga ng bata  
ฟรี・มีบริการดูแลเด็ก  
Free of charge.  
Childcare available

自分の経験をもとに、来日間もない外国出身者に日本語や日本の制度・習慣を伝えてみませんか？

何を、どう、教えればいいのか？ 一緒に考えながら、ノウハウを習得しましょう！

(この講座の修了者は、日本語教室(9月開始予定)で、実際に教える実践体験ができます)

Com base na sua experiência pessoal, não gostaria de ensinar o idioma ou o Sistema japonês aos que acabaram de chegar ao Japão? Vamos pensar juntos e aprender sobre o Quê e Como ensinar!

(Àqueles que concluírem o curso, será possível ensinar, na prática, em classes de língua japonesa (previsto para começar em setembro)

先行来日本者、发挥专长帮助新来乍到的外国朋友掌握日语、了解日本社会制度、风俗习惯吧？让我们携手一起探讨！追求！

(此讲座的修了者，可在日语教室(预定9月份开课)实践体验教课)

Ating ituro sa mga dayuhan ang kaugalian at sistema ng bansang Hapon sa nihongo batay sa ating karanasan. Paano at ano ang dapat ituro? Sama-sama nating isipin at pag-aralan ang kasanayang ipapaalam sa atin. (Ang mga nakapagtapos sa kursong ito ay maaari ng magsimulang magsanay o magpraktis na magturo sa mga Japanese classroom (naka iskedyul na umpisahan sa Setyembre)

ท่านสนใจที่จะถ่ายทอดภาษาญี่ปุ่น ระบบและวิถีชีวิตแบบญี่ปุ่นจากประสบการณ์ของตนเองให้กับผู้ที่เพิ่งมาญี่ปุ่นหรือไม่?

จะบอกอะไรบอกอย่างไรดี? มาช่วยกันคิด ร่วมกันเรียนรู้เทคนิคการสอนด้วยกันเถอะ (ผู้ที่เรียนจบคอร์สนี้สามารถฝึกปฏิบัติสอนจริง

ในชั้นเรียนภาษาญี่ปุ่น(ที่จะเปิดในเดือนกันยายน)ได้ด้วย)

Are you a bilingual foreign resident in Nagano? Then why don't you take advantage of your own experiences and teach new foreign comers a Japanese language, systems and customs? You can learn what and how to teach in this seminar through discussions with other participants. (All who finish the course will have an opportunity to teach in the Japanese course starting in September.)

かいさいび  
開催日

2014.

5/11、5/25、6/8、6/22、7/6、7/13、8/3 日曜日(全7日間)

Data de realização: 11 de maio, 25 de maio, 8 de junho, 22 de junho, 6 de julho, 13 de julho e 3 de Agosto Domingo (Total de 7 dias)

举办日: 2014年5/11、5/25、6/8、6/22、7/6、7/13、8/3 星期日(共七天的讲座)

Petsa: Mayo 11, Mayo 25, Hunyo 8, Hunyo 22, Hulyo 6, Hulyo 13, Agosto 3 (Araw ng Linggo- 7 sesyon lahat)

วันอบรม: พฤษภาคม วันที่ 11, 25, มิถุนายน วันที่ 8, 22, กรกฎาคม วันที่ 6, 13, สิงหาคม วันที่ 3 วันอาทิตย์ (รวม7วัน)

Seminar Days: Sunday, May 11 & 25, June 8 & 22, July 6 & 13, Aug. 3, 2014 (7 days)

時間: 午後1時~4時 (①13:00~14:30、②14:30~16:00の2コマ)

会場: 長野市もんぜんぷら座 国際交流コーナー

Horário: 13h às 16h (2 etapas ①13:00~14:30、②14:30~16:00)

Local: Nagano-shi Monzen Plaza, Kokusai Kouryu Corner

时间: 下午1点至4点 (①13:00~14:30、②14:30~16:00的两次讲义)

地点: 長野もんぜんぷら座 国際交流台

Oras: 1:00 Pm~ 4:00 Pm

(Nahahati sa 2 frame: ①13:00~14:30、②14:30~16:00)

Lugar: Nagano Monzen Plaza Kokusai Koryu Corner

เวลา: 13:00 น.~ 16:00 น.

(มี2คาบเรียน ①13:00น.~14:30น.、②14:30น.~16:00น.)

สถานที่: นากาโนะชิ มอนเซนพลาซ่า โคคุไซโคริวคอรเนอร์

Time: 1~4pm (Two Sessions:①1~2:30pm, ②2:30~4pm)

Place: Int'l Exchange Corner, Nagano City Monzen Plaza

ながのし  
長野市もんぜんぷら座  
(長野市新田町1485-1)



こうざい  
講座例

「文化の違いをどう乗り越える? 自分の経験をふりかえってみよう」  
「日本の行政サービス、学校の仕組みを学んで伝えてみよう」 (ほか)



Exemplo do Conteúdo 「Como superar as diferenças de cultura? Vamos recordar a nossa experiência」  
「Serviços públicos do Japão, Aprender e Explicar sobre o Sistema Educacional」 outros

实例: 「如何正确理解不同文化? 回顾自己走过的历程」

「了解、言传日本行政机构的服务、学校的结构」等等

“Paano maiintindihan ang pagkakaiba ng kultura?” Magbalik-tanaw sa sariling karanasan.

Pag-aaral at pagtuturo ng mekanismo ng paaralan at serbisyo ng administrasyon ng bansang Hapon at iba pa.

ตัวอย่างเนื้อหา: 「จะก้าวข้ามวัฒนธรรมที่ต่างกันได้อย่างไร?」

「มาลองเรียนรู้และถ่ายทอดเรื่องบริการทางราชการและกระบวนการต่างๆในโรงเรียนของญี่ปุ่นกันเถอะ」 และอื่นๆ

Sample topics: “How do you overcome cultural differences? What was it like with you?”  
“Let’s learn and communicate Japanese administration/school systems” etc.

たいしょうしゃ  
対象者

(1) 母国語が日本語以外の方で、県内に在住している方。

(2) 日常的な場面で使用される日本語を理解でき、一般的な話題に関する読み物を読んで理解することができる方。(日本語能力試験N2以上が目安)

★原則として、全日程に参加できる方。修了者には修了証を発行します。

Público Alvo (1) Que o idioma materno não seja o japonês e que esteja residindo na província de Nagano.

(2) Que compreenda o japonês usado no cotidiano e a leitura de temas gerais. (Como referência, ter o nível 2 do exame de proficiência em língua japonesa.)

★ Por regra, pessoa que possa participar do curso inteiro. Aos que concluírem o curso será emitido um Certificado de Conclusão.

招募条件: (1) 不以日语为母语的居住在县内者。

(2) 理解日常生活中的日语, 就一般话题的读物看得懂者。(日语能力考试二级以上)

★原则上规定要全讲座出席。针对全讲座修了者颁发修了证。

Kwalipikasyon (1) Hindi Japanese ang native language, naninirahan sa Nagano Prefecture.

(2) Nakakaintindi ng wikang Hapon na ginagamit sa pang-araw araw, nakakabasa at nakakaintindi ng pangkalahatang paksa sa wikang hapon. (mayroong Japanese language Proficiency Level 2 at higit pa)

★Ayon sa panuntunan, makakatanggap ng sertipiko para sa mga naka attend ng kumpleto sesyon.

คุณสมบัติ (1) ผู้ที่อาศัยอยู่ในจังหวัดนากาโนะและไม่ได้ใช้ภาษาญี่ปุ่นเป็นภาษาแม่

(2) สามารถเข้าใจภาษาญี่ปุ่นที่ใช้ในชีวิตประจำวัน และสามารถอ่านทำความเข้าใจในหัวข้อต่างๆไปได้ (ความสามารถภาษาญี่ปุ่นประมาณระดับ2ขึ้นไป)

★ เป็นผู้ที่สามารถเข้ารับการอบรมได้ทุกครั้งโดยจะมีการออกประกาศนียบัตรจบหลักสูตรให้ผู้เข้ารับการอบรมด้วย

This seminar is for: (1) A resident of Nagano Prefecture whose native language is NOT Japanese,

(2) and understands daily Japanese, and can read Japanese materials about general topics (approximately JLPT N2 level or higher)

★As a general rule, you will need to attend all sessions. A certificate of completion will be given to those who complete the course.

もうしこみさき  
申込先

ながのけんこくさいかきょうかい  
長野県国際化協会 (ANPI)

Local de Inscrição: Associação de Internacionalização da Província de Nagano (ANPI)

報名处: 長野县国际化协会(英文简称 ANPI)

Mag-aaply sa Association of Nagano Prefecture for Internationalization (ANPI)

สมัครได้ที่ สมาคมนานาชาติจังหวัดนากาโนะ (ANPI)

To attend, apply to: ANPI (Association of Nagano Prefecture for Internationalization)

[TEL] 026-235-7186

[FAX] 026-235-4738

[E-mail] [mail@anpie.or.jp](mailto:mail@anpie.or.jp)

もうしこみきげん  
申込期限

2014年4月28日(月)

もうしこみしょ  
申込書

を、メールまたはFAXで送ってください。

Prazo de Inscrição: 28 de abril de 2014 (seg)

Favor enviar a ficha de inscrição por E-mail ou Fax.

報名期限: 截止 2014年4月28日(星期一) 可以电子邮件或传真形式报名。

Deadline: April 28, 2014 (Lunes) Ipadala ang aplikasyon sa pamamagitan ng e-mail o fax.

หมดเขตสมัคร : วัน(อาทิตย์)ที่ 28 เมษายน พ.ศ.2557 กรุณาส่งใบสมัครทางเมลล์ หรือ ทางแฟกซ์

Application Deadline: Monday, April 28, 2014 Please send us the application form by mail or fax.

# バイリンガル日本語指導者育成講座 最終回 8月3日(日)



【グループ発表】  
日本語教室の内容や教え方  
などを発表しました。



修了式を行いました。  
—受講生の皆さんと記念撮影—



# バイリンガル日本語指導者 フォローアップ講座 (1/18)



外国人コミュニティのための日本語教室の締めくくりとして、バイリンガル指導者の方々を対象にフォローアップ講座を開催しました。

9月から始まった外国人コミュニティのための日本語教室の報告やNPO 法人アラッセ（浜松市）で活動する金城アイコさんの講演をお聞きし、今後の活動について話し合いました。



## バイリンガル指導者の皆様

教室の企画・開催お疲れ様でした！準備期間も短く、開催までに大変だったことがたくさんあったと思います。しかし教室の受講者の方々も講師がバイリンガル指導者だから安心して、楽しく受講できたのではないのでしょうか。今後もサポート体制を強化し、皆様の活動を一緒に進めていきますので、どうぞよろしくお願い致します！

# 外国人コミュニティのための日本語教室

## ORANGE グループ 9/20(土)

応急手当をテーマにやさしい日本語とタガログ語で応急手当や災害時の勉強をし、松本市の消防隊員の方の指導のもと応急手当の実践練習をしました！



# 外国人コミュニティのための日本語教室 オレンジグループ 第1回(12/10)

教室前半は日本語のレシピを読みながら、手巻き寿司を作りました。  
お寿司の種類や海苔の巻き方、具材の名前などを学びました。  
後半では長野市防災市民センターへ行き、実際に地震や火災の体験を  
しながら覚えておきたい日本語表現などを勉強しました。



# 外国人コミュニティのための日本語教室 須・中日本語教室(10/19)



日本の教育の仕組みや  
覚えておく日本語など  
勉強しました。  
参加者の皆さんの質問  
にも答えながら充実し  
た日本語教室になりま  
した。



# 外国人コミュニティのための日本語教室 須・中日本語教室(12/21)



長野県の郷土料理「おやき」について学び、日本語のレシピを読みながら実際におやきを作りました。参加者にとって初めての「おやき」作りで、充実した日本語教室になりました。



# 外国人コミュニティのための日本語教室 アンピ主催日本語教室（11/30）

県警の方をお迎えして、女性と子どものための防犯について学びました。大人から小学生になる前のお子さん、総勢 20 名が参加し、防犯の基礎知識や簡単な護身術を身に付けました。



# 多文化共生推進シンポジウムを開催いたします

日時：平成27年2月22日(日)

10:30 ~ 15:30

(休憩 12:00 ~ 13:00)

場所：長野市柳原公民館

「託児室」があります。  
ご利用ください。



## 【内容】

- 10:30～ 開会  
基調講演「多様性を活かした多文化共生社会に向けて」  
・・・山脇啓造氏（明治大学国際日本学部 教授）
- 11:30～ 多文化共生推進指針策定について報告  
・・・・・・・県国際課
- 12:00～ 休憩
- 13:00～ 「外国籍県民の力を活用した地域社会の活性化について」  
・・・横山ルッカス 氏
- 13:40～ 各10分程度の体験談後パネルディスカッション  
パネラー・・・ 沙 軍岡氏、近藤 アモンラト氏、  
春原 直美氏（日本語教室・すずらんの会事務局長）  
パネルディスカッションコーディネーター  
・・・・・・・堀 永乃氏  
（一般財団法人グローバル人財サポート浜松代表理事）
- 15:00～ 質疑応答
- 15:30 閉会

申込・問合せ先

長野県県民文化部国際課

TEL:026-235-7188

E-mail : kokusai@pref.nagano.lg.jp

# 長野県多文化共生推進シンポジウムを開催いたしました！

【開催日：平成 26 年 2 月 22 日(日)】

今年度策定中の「多文化共生推進指針」について、策定内容を県民の皆様に周知し、今後の長野県の多文化共生のあり方についての認識を共有する機会とするとともに、日本語学習支援事業の実施状況と成果について報告を行うため、2月22日長野市柳原公民館においてシンポジウムを開催いたしました。

## 1 基調講演

「多様性を活かした地域づくり～多文化共生社会に向けて」

明治大学国際日本学部教授 山脇 啓造 先生

地域における多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく事」とし、自治体の取り組み、国の取り組み、諸外国の取り組みについて講演されました。

おわりには、これまでの外国人支援を中心とした取り組みから多様性を生かす観点に立った地域づくりへと、「多文化共生 2.0」についてお話しいただきました。



## 2 長野県多文化共生推進指針の策定について

策定中の「長野県多文化共生推進指針」について、長野県県民文化部国際課 小林課長補佐よりご報告を申し上げました。



### 3 外国籍県民の力を活用した地域社会の活性化について

＝ 体験談＝

プルデンシャル生命保険(株)営業所長

横山 ルukas さん

5才の時に日本に移住され24年、現在は保険会社  
営業所長としてご活躍されています。

- 1 日本にいる外国人について
- 2 親の大切さ
- 3 目標を決める大切さ
- 4 続けることの大切さ
- 5 「変わり者ですね」は、ほめ言葉

について、お話しいただきました。



＝パネルディスカッション＝



パネルディスカッションコーディネーターの(一財)グローバル人財サポート浜松代表理事 堀 永乃 さん を中心にパネラーの皆さんが、今年度ご自身が活躍された「日本語教室」について、現在の地域の活動について、今後のあり方、目標について意見交換をされました。



春原 直美さん、井田 ピムテープさん、沙 軍崗さん

# 長野県多文化共生推進指針策定委員会

